

# 来週の「売り物」記事はこれ



2012年9月21日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

大型ルポシリーズ「S（ストーリー）」

没後20年 中上健次の「遺言」

朝刊 23日（日）



戦後文学の巨人ともたたえられる作家、中上健次=写真。今夏、没後20年を迎えてなお、彼の残した膨大な作品はますます輝きを増し、後進の作家たちにも大きな影響を及ぼしています。一方で、最後の無頼派と呼ばれたように、対談で興奮して文壇の大御所を投げ飛ばした……など、さまざまな「中上伝説」を残しています。長女で同じく文学の道を選んだ中上紀さん、さらに一番の理解者だった評論家、柄谷行人さんの話を軸に、いまだ光を放ち続ける中上健次の実像に迫りました。



日曜朝は『S』で始まる——。ご期待ください。

シリーズインタビュー「時代を駆ける」

「建てない」建築家、坂口恭平さん

25日（火）から5回



「時代を駆ける」は、「建てない」建築家を名乗り、マルチな活動を展開している坂口恭平さん（34）=写真=です。

坂口さんは早稲田大建築学科に在学中、路上生活者の暮らしを見て回り、「0円生活」を考案。お金に縛られない、新しいライフスタイルを提唱しています。東日本大震災では、避難者を熊本で無料で受け入れました。この活動を機に「新政府」の樹立を宣言し、自分たちの命は自分たちで守ろうと呼びかけています。自宅を即席のカフェにしたり、携帯電話で悩み相談を受けたり、歌手としてCD発売やライブ公演も。自由な発想と型破りな行動が、若者らの共感を集めています。

イマドキ働くキーワード

くらしナビA面 24日（月）～26日（水）

現代の労働事情を象徴するキーワードを、Q&A方式で解説します。就職をめぐる「超氷河期」「即戦力主義」、非正規雇用の「雇い止め」「派遣切り」、職場環境の「サービス残業」「パワハラ」などの言葉を、3回に分けて取り上げます。最低賃金などの法制度にも触れ、専門家へのインタビューも併せて掲載します。



## もう一度食べたい～マキの実 くらしナビB面 25日(火)

赤や紫に色づき、グミ菓子のような食感を楽しめるマキ(槿)の実。ほのかな甘みの懐かしい味を求めて、茨城県行方市を訪ねました。地元では古くから「マキボンボ」と呼ばれ、親しまれてきましたが、最近は食べる人も少なくなっています。



## 2.5世帯住宅 くらしナビB面 27日(木)



親との同居を望む家庭が増えているようです。親世帯に加え、独身の兄弟も一緒に住む「2.5世帯住宅」をご存知ですか。千葉県柏市の男性は実家を見て替え、妻と娘、両親、妹と計6人で暮らしています。玄関やキッチン、浴室が二つずつあり、週末は一家で団らん。家族が多いと、災害の時も安心です。

## サッカー・エリート教育の成果は？

— JFAアカデミー福島をレポート —

25日「月刊サッカー」で

日本サッカー協会が、エリート選手育成のため2006年に開設した「JFAアカデミー福島」が、少しずつその成果を見せています。先ごろ行われた20歳以下世界女子選手権日本大会で、銅メダル獲得メンバーとなったMF田中陽子、DF浜田遥らは、その1期生。男子では、MF幸野志有人(J2町田)が初のJリーガーになっています。東日本大震災による原発事故の影響で、福島県楡葉町の施設は使えなくなりましたが、現在は静岡県御殿場市に移って、中学、高校生年代の若者たちが活動中です。25日の「月刊サッカー」では、この教育システムの現状をメンバーの話題としてレポートします。



練習に励むJFAアカデミー  
福島の選手たち

日中国交正常化から40年

日中企画 — 今後の日中関係はどうあるべきか —

28日から連載



毛沢東主席と握手する田中  
角栄総理大臣

9月29日に日中国交正常化40年を迎えます。これに先立つ27日には北京で日本の日中友好諸団体を招いて記念式典が開催されます。尖閣諸島問題で日中関係が緊迫化する中、今後の日中関係はどうあるべきかを探る日中企画を28日朝刊から3回連載します。あわせて28日朝刊では国交正常化40年の歴史を振り返る特集を掲載し、日中関係で充実した紙面を展開します。また、26日には自民党総裁選が投票されます。政権奪還が視野に入中、今後の政局を見通す紙面を提供します。日曜のSストーリーはJAL再生の物語です。

橋下徹大阪市長の補助金ストップで存亡危機!?

## 文楽の魅力を演劇評論家の渡辺保氏がたっぷり語る

夕刊特集ワイド面 25日(火)

文楽協会に対する大阪市の補助金削減問題で、人形遣いら文楽の技芸員と橋下市長との面談が実現する見通しとなった。文楽は果たして税金を投入して保護するにふさわしい文化なのか。渡辺保氏＝写真＝は「人間の演劇を超える人形劇のドラマを義太夫節が深め、三味線が音楽的な昇華されるのが文楽。文楽を失えば、近松門左衛門も失う。文楽の価値と比較して補助金の額は過大でしょうか」と疑問を呈する。

